

いちばん、人を考える会社になる。

第一生命



2010年3月期 決算報告

2010年5月14日
第一生命保険株式会社

- それでは、当社グループの2010年3月期決算報告を行います。
- まず、私から資料に沿って決算内容についてご説明させていただき、残りの時間を質疑応答とさせていただきます。
- 1ページをご覧ください。

第一生命

決算のポイント

- **第一フロンティア生命の個人年金の販売が好調であったことにより、保険料等収入は2年連続、新契約高は18年ぶりに前年度比で増加**
- **金融市場の回復による有価証券評価損の減少等により、経常利益、当期純利益は前年度比で増加**
- **グループのEEVは前年度比で1兆778億円増加の2兆8,363億円**

1

- 決算のポイントはご覧の3点となります。
- 1点目は、第一フロンティア生命の個人年金の販売が好調であったことにより、保険料等収入は2年連続、新契約高は18年ぶりに前年度比で増加したことです。
- 2点目は、金融市場の回復による有価証券評価損の減少等により、経常利益、当期純利益は前年度比で増加したことです。
- 3点目は、グループのEEVが前年度比で1兆778億円増加し、2兆8,363億円となったことです。
- 次に2ページをご覧下さい。

	(億円)			<参考>	
	09/3期	10/3期	増減	10/3期 (予想) ⁽³⁾	増減 (実績vs予想)
経常収益	52,252	52,940	+687	51,070	+1,870
第一生命単体	51,828	43,315	8,512	42,410	+905
経常利益	633	1,882	+1,248	1,780	+102
第一生命単体	1,091	1,936	+844	1,850	+86
当期純利益 ⁽¹⁾⁽²⁾	218	556	+338	500	+56
第一生命単体	655	608	47	560	+48

(1) 当社は2010年3月31日まで相互会社でありましたが、当期純剰余に代えて当期純利益と記載しております。

(2) 相互会社においては、社員配当準備金繰入額は剰余金処分により処理されますが、株式会社においては、契約者配当準備金繰入額は損益計算書において費用処理されず、従って、当期純剰余より社員配当準備金繰入額を費用処理したと仮定して算出した数値を基に、09/3期の当期純利益を記載しております。なお、10/3期は、社員配当準備金繰入額に相当する金額を、契約者配当引当金繰入額として特別損失に計上しております。

(3) 2010年2月22日公表。

- 連結主要業績はご覧のとおりで、主に当社単体の資産運用関係収支の改善、事業費の抑制等により、2月22日に公表した業績見通しを上回りました。
- なお、表の注記に記載しているとおり、当社は2010年3月31日まで相互会社でありましたが、当期純剰余に代えて当期純利益と記載しています。
- また、相互会社においては、社員配当準備金繰入額は剰余金処分により処理されますが、株式会社においては、契約者配当準備金繰入額は損益計算書において費用処理されます。従って、2009年3月期の当期純利益は、当期純剰余より社員配当準備金繰入額を費用処理したと仮定して算出しています。
- 次に3ページをご覧ください。

第一生命

連結損益計算書・連結貸借対照表(要約)

連結損益計算書(要約)⁽¹⁾

	09/3期	10/3期	増減
経常収益	52,252	52,940	+687
保険料等収入	32,936	37,042	+4,106
資産運用収益	11,780	12,472	+691
うち利息・配当金等収入	7,408	7,084	324
うち有価証券売却益	3,828	2,427	1,401
うち特別勘定資産運用益	-	2,896	+2,896
その他経常収益	7,535	3,425	4,110
経常費用	51,619	51,057	561
うち保険金等支払金	27,637	26,569	1,068
うち責任準備金等繰入額	277	11,942	+11,665
うち資産運用費用	14,356	3,403	10,952
うち有価証券売却損	5,048	2,078	2,969
うち有価証券評価損	4,124	78	4,045
うち特別勘定資産運用損	3,505	-	3,505
うち事業費	4,651	4,758	+107
経常利益	633	1,882	+1,248
特別損益	455	1,162	1,618
税金等調整前当期純利益	1,089	719	369
法人税等合計	894	170	724
少数株主損失	23	7	16
当期純利益	218	556	+338

連結貸借対照表(要約)

	09/3末	10/3末	増減
資産の部合計	304,446	321,042	+16,596
うち現預金・コール	4,524	4,373	151
うち買入金銭債権	2,813	2,898	+85
うち有価証券	229,950	251,473	+21,523
うち貸付金	42,487	38,349	4,138
うち有形固定資産	12,398	12,440	+41
うち繰延税金資産	6,425	3,395	3,030
負債の部合計	298,646	311,400	+12,753
うち保険契約準備金	279,703	291,122	+11,419
うち責任準備金	274,490	286,326	+11,836
うち退職給付引当金	4,055	4,114	+58
うち価格変動準備金	1,014	1,155	+140
純資産の部合計	5,799	9,641	+3,842
うち基金等合計	6,860	5,587	1,273
うち株主資本合計			5,587
うち評価・換算差額等合計	1,125	3,936	+5,061
うちその他有価証券評価差額金	473	4,622	+5,096
うち土地再評価差額金	622	635	12

10/4始
9,641
5,587
3,936
4,622
635

(1) 09/3期については、社員配当準備金繰入額について株式会社と同様に費用処理を行ったと仮定した場合の数値。

3

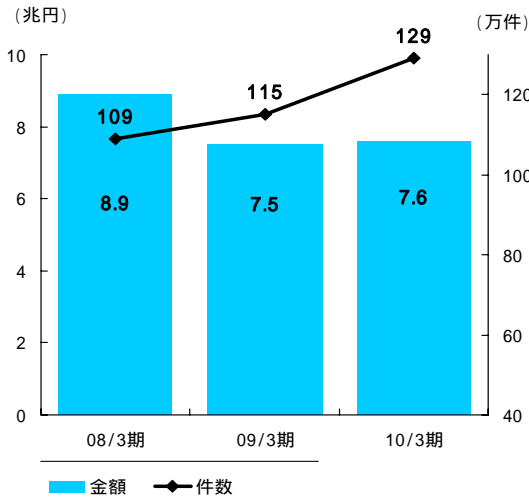
- 主要収支の詳細をご説明します。
- 連結経常収益は、前年度より687億円増加し、5兆2,940億円となりました。このうち、保険料等収入は、第一フロンティア生命の個人年金の販売が好調であったことにより、前年度に比べ4,106億円増加し、3兆7,042億円となりました。
- 連結経常利益は、金融市場環境の回復により、有価証券評価損が減少したこと等により、前年度に比べ1,248億円増加し、1,882億円となりました。
- 経常利益に、特別利益、特別損失、法人税等合計、少数株主損失を加減した当期純利益(注)は、前年度に比べ338億円増加し、556億円となりました。
- 次に4ページをご覧ください。

(注) 当社は2010年4月1日付で相互会社から株式会社に組織変更いたしました。相互会社においては、社員配当準備金繰入額は剰余金処分により処理されますが、株式会社においては、契約者配当準備金繰入額は損益計算書において費用処理されます。従って、当期純剰余より社員配当準備金繰入額を費用処理したと仮定して算出した数値を基に、2009年3月期の当期純利益を記載しております。また、2010年3月期については、社員配当準備金繰入額に相当する金額を、契約者配当引当金繰入額として特別損失に計上しております。

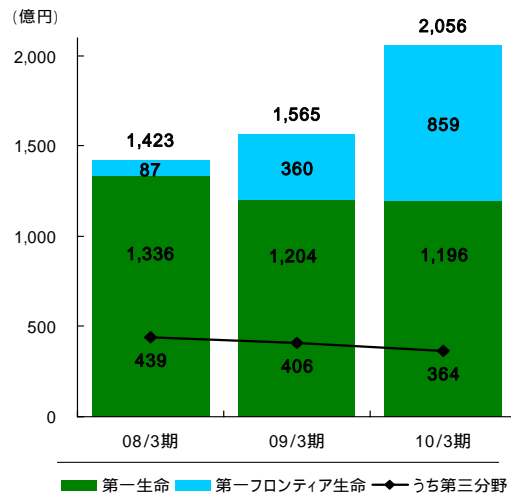
第一生命

新契約動向(個人保険・個人年金)

新契約高⁽¹⁾



新契約年換算保険料⁽¹⁾

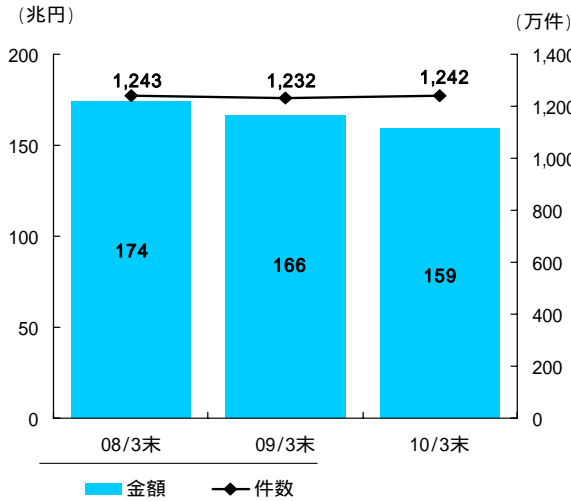


(1) 第一生命と第一フロンティア生命の合算ベース

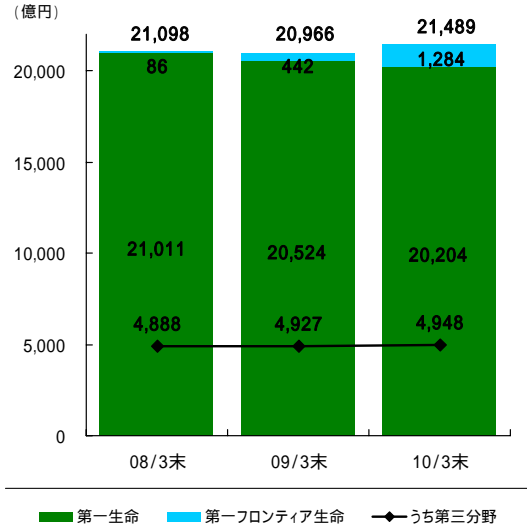
- 契約業績の状況についてご説明します。こちらは、当社及び第一フロンティア生命を合算した数値となります。
- 左のグラフは、個人保険・個人年金合計の新契約高の状況です。新契約高は、第一フロンティア生命の個人年金の販売が好調であったことにより、前年度と比べて1.4%増加し、7兆6,433億円となりました。折れ線で示しております新契約件数は当社単体及び第一フロンティア生命とも前年度と比べて増加しました。
- 次に、右のグラフですが、新契約年換算保険料は、当社単体についてほぼ横ばいとなる中、第一フロンティア生命が大幅に増加した結果、合算ベースでは前年度に比べ31.3%増加し、2,056億円となりました。このうち、折れ線で示しております第三分野は前年度に比べ10.3%減少しました。
- 次に5ページをご覧ください。

保有契約動向(個人保険・個人年金)

保有契約高⁽¹⁾



保有契約年換算保険料⁽¹⁾

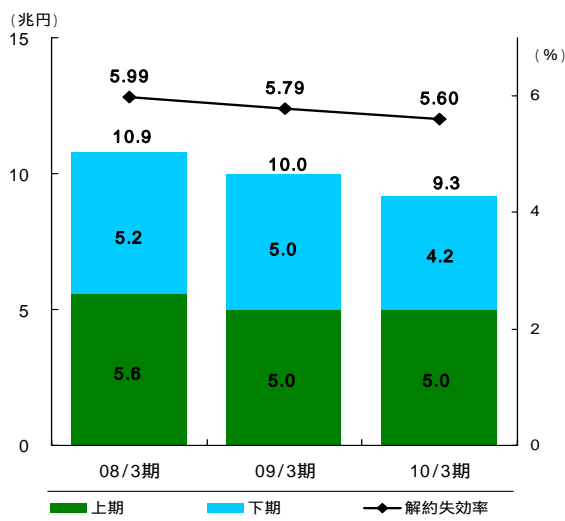
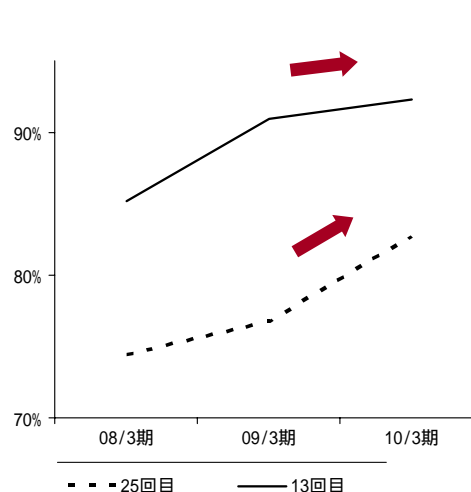


(1) 第一生命と第一フロンティア生命の合算ベース

- 保有契約の動向についてご説明します。
- 左のグラフは、個人保険・個人年金合計の保有契約高の状況です。保有契約高は、前年度と比べて4.5%減少し、159兆円となりました。折れ線で示しております保有契約件数は前年度と比べて増加しました。
- 次に、右のグラフですが、保有契約年換算保険料は、第一フロンティア生命の個人年金の販売が好調であったことにより、前年度に比べて2.5%増加し、2兆1,489億円となりました。このうち、折れ線で示しております第三分野は4,948億円となり、堅調に推移しています。
- 次に6ページをご覧ください。

第一生命

解約失効高・継続率動向

解約失効高(個人保険・個人年金)⁽¹⁾継続率⁽¹⁾

(1) 第一生命単体ベース

6

- 左のグラフは当社単体の解約失効高並びに解約失効率の状況を示しております。解約失効高については、上期までは前年度比で若干増加していましたが、通期では前年度に比べて7.8%減少し、9.3兆円となりました。これは、年度当初は景気の悪化等による解約の増加があったものの、株式会社化に伴うお客さまとの接点強化により、その後大きく改善が図られたことによります。
- また、折れ線で示しております解約失効率は前年度比0.19ポイント改善し、5.60%となりました。引き続き改善傾向が継続しています。
- 右のグラフは、契約の継続率の推移ですが、ご覧のとおり大幅に上昇しており、契約の質の向上に取り組んだ成果が着実に表れています。
- 次に7ページをご覧ください。

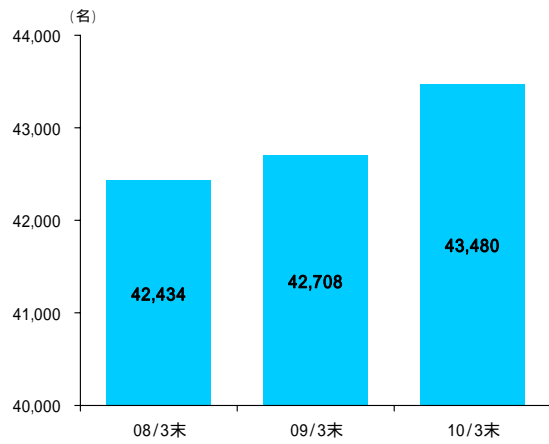
いちばん、人を考える会社になる。

契約業績の状況

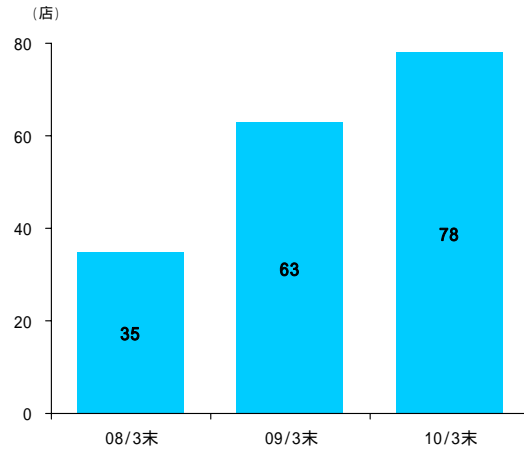
第一生命

販売チャネルの状況

第一生命の営業職員数⁽¹⁾



第一フロンティア生命の募集代理店数



(1) 営業職員については、当社と委任契約を締結しかつ生命保険募集人登録をしている者のうち、その他補助的業務に従事する者を除いております。

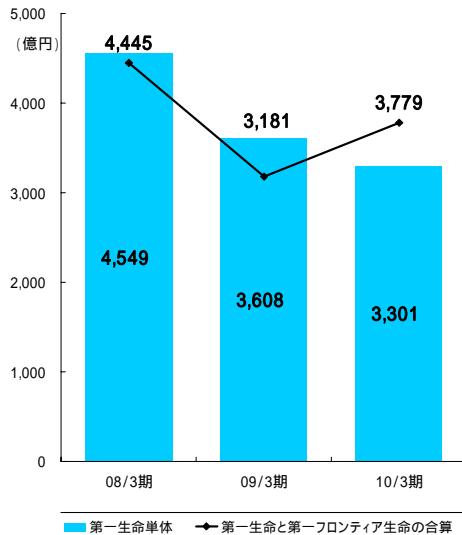
7

- 販売チャネルの状況についてご説明します。
- 左のグラフは営業職員数の推移です。2010年3月末の営業職員数は前年度末に比べて772名増加し43,480名となりました。
- また、第一フロンティア生命の募集代理店数も順調に増加し、2010年3月末の募集代理店数は78店となりました。
- 次に8ページをご覧ください。

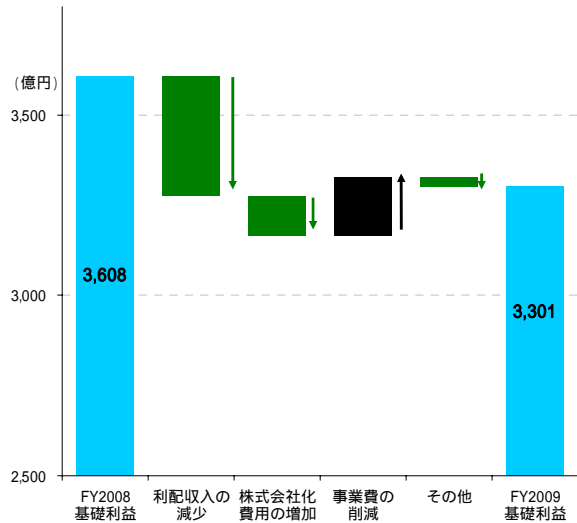
第一生命

基礎利益

基礎利益



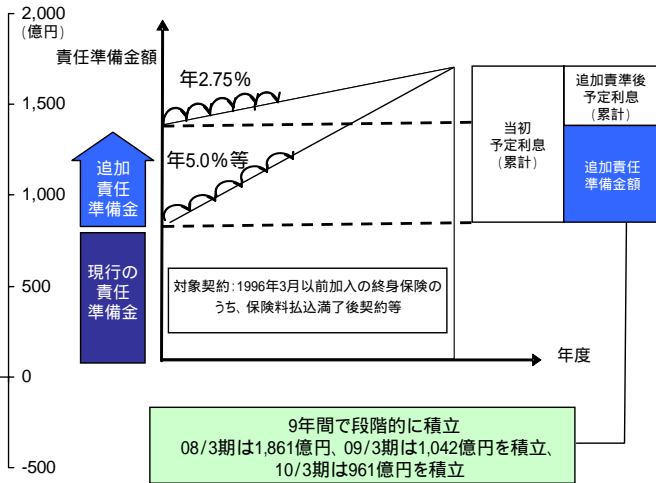
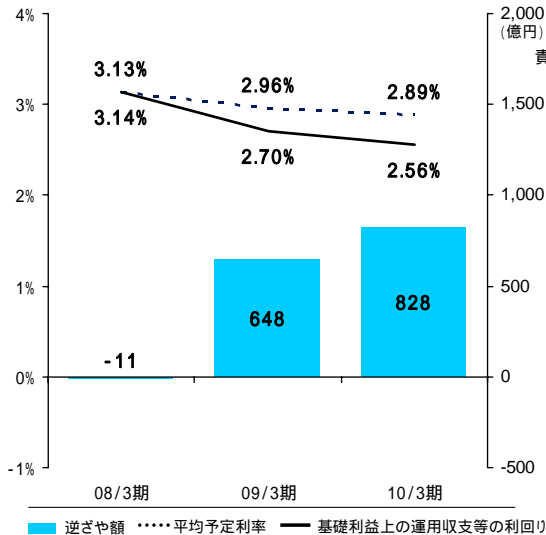
基礎利益の増減要因 (第一生命単体)



- 当社の基礎利益についてご説明します。
- 左のグラフは基礎利益の推移を示しています。
- 2010年3月期の当社単体の基礎利益は前年度比で306億円減少し、3,301億円となりました。
- 右のグラフには、基礎利益の増減要因を示しております。基礎利益の減少の主な要因は利息及び配当金等収入が332億円減少したことによるものです。
- 事業費については、支社の機能別再編や人事制度の改定等を通じた抑制により、株式会社化に伴う一時的な費用の増加があったにもかかわらず、前年度比で52億円減少しました。
- 次に9ページをご覧ください。

予定利率・基礎利回り・逆ざや⁽¹⁾

追加責任準備金の積立てのイメージ⁽¹⁾

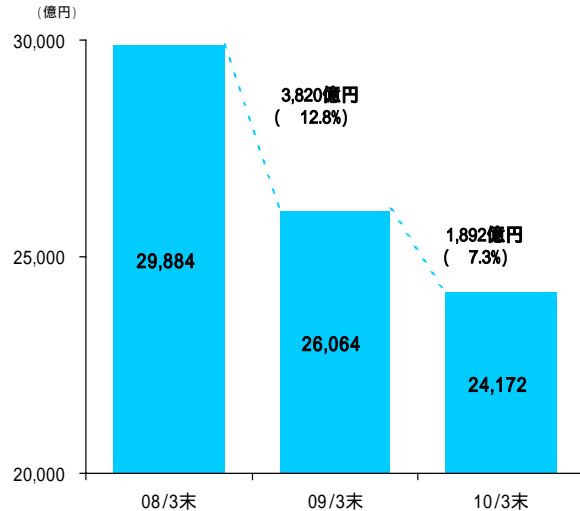
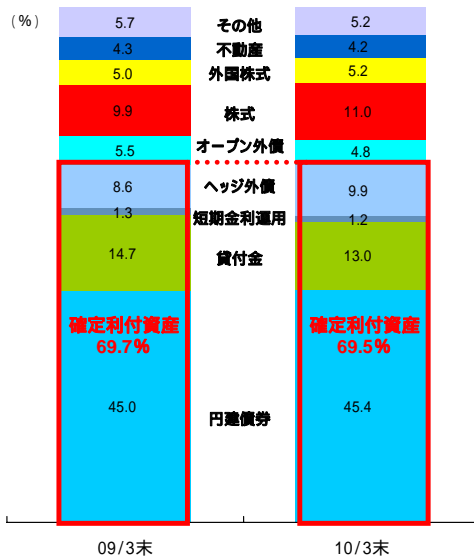


(1) 第一生命単体ベース

- 当社は、逆ざやの抑制に向けた取組みを進めています。2008年3月期には、業界他社の多くが依然として逆ざやを抱える中、当社は逆ざやを解消しました。
- しかし、2009年3月期に運用利回りの低下に伴い再び逆ざやとなり、2010年3月期も逆ざやが拡大しました。
- ただし、平均予定利率は着実に低下しており、逆ざやの負担はかつてに比べると縮小しています。
- また、逆ざや対策として、当社は、過去の高予定利率の保険契約を対象として追加責任準備金の積立を2008年3月期より9年以内で実施することとしており、実質的な負債コストの削減を早めることで利益構造の安定化を進めております。2010年3月期については961億円を繰り入れています。
- 次に10ページをご覧ください。

資産の構成(一般勘定)⁽¹⁾

国内株式の簿価⁽¹⁾⁽²⁾



(1) 第一生命単体ベース

(2) 国内株式のうち時価のあるもの(子会社・関連会社株式、非上場国内株式は除く)

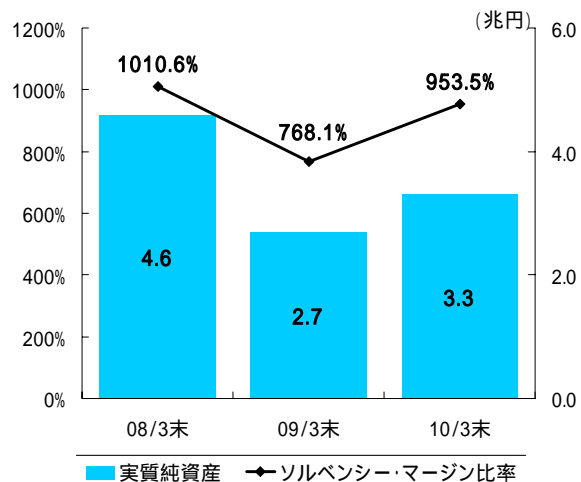
- 資産運用の状況についてご説明します。
- 左のグラフをご覧ください。2010年3月末における当社の一般勘定資産の構成比を表しています。
- 引き続き、ALMと厳格なリスク管理の考え方に基づいて、円建公社債や貸付金などの確定利付資産中心の運用を継続しています。
- また、一般勘定資産における国内上場株式のエクスポージャーですが、右のグラフの通り簿価ベースで2008年3月末の約3兆円から2010年3月末には2兆4,172億円に減少しました。
- 今後も、リスク性資産のコントロールを継続していく方針です。
- 次に11ページをご覧ください。

含み損益(一般勘定)⁽¹⁾

(億円)

	09/3末	10/3末	増減
有価証券	1,565	8,514	+6,948
公社債	4,038	2,657	1,381
株式	967	5,225	+6,193
外国証券	1,370	598	+1,968
公社債	511	790	+1,302
株式等	858	192	+666
その他	134	32	+167
不動産	1,612	908	703
一般勘定計	3,192	9,420	+6,227

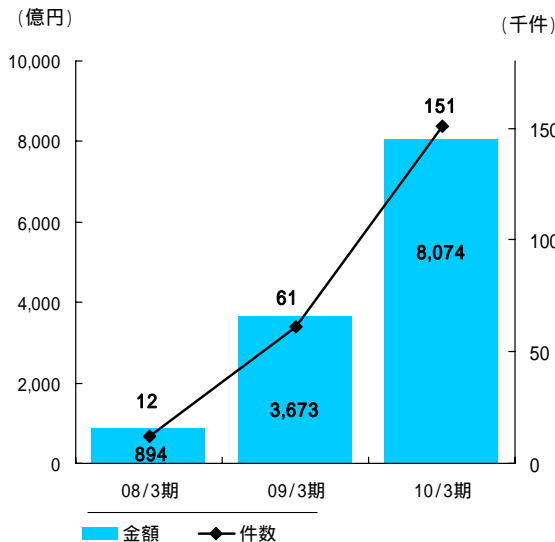
ソルベンシー・マージン比率および実質純資産額⁽¹⁾



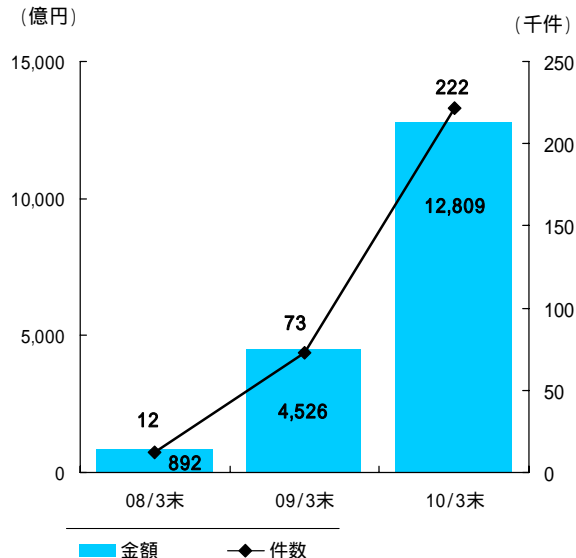
(1) 第一生命単体ベース

- 当社の健全性指標についてご説明します。
- 左の表の通り、含み損益は主に国内株式市場の回復により、前年度末に比べ6,227億円の増加となりました。
- また、右の折れ線グラフにありますように、ソルベンシーマージン比率は前年度末に比べ185.4ポイント上昇し、953.5%となりました。
- 次に12ページをご覧ください。

新契約高



保有契約高



- 第一フロンティア生命の状況についてご説明します。
- まず契約業績についてです。
- 左のグラフをご覧ください。新契約高は、銀行窓販における個人年金保険の販売が好調だったことから、前年度と比べて119.8%増加し、8,074億円となりました。折れ線で示しております新契約件数も大幅に増加しました。
- また、保有契約高は、前年度末と比べて183.0%増加し、1兆2,809億円となりました。同様に保有契約件数も大幅に増加しました。
- 今後も、個人年金市場の長期的な成長性を見据えながら、安定的に残高を積み上げてまいります。
- 次に13ページをご覧ください。

第一生命

第一フロンティア生命

収支の状況		(億円)		
		08/3期	09/3期	10/3期
経常収益		894	3,871	9,613
うち保険料等収入		891	3,862	8,632
うち変額年金		891	3,664	7,324
うち定額年金		-	-	721
経常費用		1,007	4,332	9,696
うち責任準備金等繰入額		887	3,474	8,640
うち最低保証リスクに係る責任準備金繰入額(は戻入)		11	371	369
うち危険準備金繰入額		8	34	404
うち資産運用費用		18	503	162
うち最低保証リスクに対するヘッジ損失		-	1	158
経常利益(は損失)		112	460	83
当期純利益(は損失)		112	461	83
当期純利益(は損失)		112	461	83
(A)危険準備金繰入額		8	34	404
(B)最低保証リスクに係る責任準備金繰入額(は戻入)		11	371	369
(C)最低保証リスクに対するヘッジ損失		-	1	158
当期純利益 + (A) + (B) + (C)		92	53	110

- 第一フロンティア生命の収支の状況についてご説明します。
- 当期純利益は前年度の461億円の赤字から83億円の赤字に縮小しました。これは、主に、2009年3月期が金融市場の混乱の影響で変額年金の最低保証リスクに係る責任準備金繰入が371億円発生していたことに対し、2010年3月期は金融市場の回復に伴いその戻入が369億円発生したことによるものです。
- 表の下段に、負債性の資本である危険準備金への繰入や変額年金の最低保証リスクに係る責任準備金繰入及びヘッジ損失を調整した、第一フロンティア生命の基礎的収益力とも言える数値の推移を記載しておりますが、着実に改善していることがおわかりになると思います。
- 次に14ページをご覧ください。

第一生命

海外事業

	期間	10/3期 保険料収入実績 ⁽¹⁾	前年比	備考
第一生命ベトナム (100%子会社、07年1月買収)	1～12月	7,441億ドン (37億円)	127.1%	マーケットシェア 5.0% 5.7% 6.3% (07年) (08年) (09年)
オーシャンライフ(タイ) (出資比率24%、08年7月出資)	1～12月	10,741百万バーツ (296億円)	108.7%	
スター・ユニオン・第一ライフ (インド) (出資比率26%、09年2月開業)	1～12月	3,427百万ルピー (68億円)	-	新契約保険料 民間生保22社中14位 (09年4月～10年3月累計)
タワー・オーストラリア (出資比率28.6%、08年8月出資)	10～9月	738百万豪ドル (583億円)	103.6%	

(1) 為替は、1ドン=0.005円、1バーツ=2.76円、1ルピー=2.0円、1豪ドル=78.96円で換算。

14

■海外事業の状況についてご説明します。

■100%子会社の第一生命ベトナムは保険料収入で対前年+27.1%増と業界平均を上回る伸展をみせており、順調にマーケットシェアを拡大しています。

■また、昨年2月に開業したインドのスター・ユニオン・第一ライフも合弁先の現地有力銀行2行の約5900支店のうち5400支店以上が稼働をしており、順調なスタートをみせています。

■そのほか、タイのオーシャンライフ、タワー・オーストラリアも前年を上回る保険料収入となっています。

■次に15ページをご覧ください。

		＜第一生命グループ＞ (億円)		
		09/3末	10/3末	増減
EEV		17,584	28,363	+10,778
	修正純資産	12,966	18,635	+5,668
	保有契約価値	4,618	9,728	+5,109
	新契約価値	835	1,189	+353

	第一生命単体			第一フロンティア生命			
	09/3末	10/3末	増減	09/3末	10/3末	増減	
EEV	17,959	28,680	+10,721	1,218	1,463	+244	
	修正純資産	13,458	18,809	+5,350	1,093	1,622	+529
	保有契約価値	4,500	9,871	+5,371	125	159	285
	新契約価値	1,021	1,356	+335	197	185	+11

■ヨーロッパ・エンベディッド・バリューについてご説明します。

■グループのEEVは前年度比で1兆778億円増加し、2兆8,363億円となりました。

修正純資産は、株価の上昇等により、前年度比で5,668億円増加し、1兆8,635億円となりました。

保有契約価値は、長期金利の上昇等により、前年度比で5,109億円増加し、9,728億円となりました。

新契約価値は、継続率の改善や事業費の削減等により、前年度比で353億円増加し、1,189億円となりました。

■詳しくは5月18日公表予定のフルレポートをご覧ください。

■次に16ページをご覧ください。

2011年3月期業績予想

(億円)

	10/3期	11/3期(予)	増減
日経平均株価	⁽¹⁾ 10,671円	11,000円	+329円
為替レート(ドル)	93.0円	91.0円	2.0円
為替レート(ユーロ)	124.9円	122.0円	2.9円
10年国債金利	1.39%	1.39%	±0.00%
経常収益	52,940	43,260	9,680
第一生命単体	43,315	39,720	3,595
第一フロンティア	9,613	3,500	6,113
経常利益	1,882	1,950	+67
第一生命単体	1,936	2,090	+153
第一フロンティア	83	160	76
当期純利益	556	500	56
第一生命単体	608	620	+11
第一フロンティア ⁽²⁾	76	144	67
1株当たり配当金	-	1,600円	-

() 上記とは別に、定款附則第2条の規定に基づき2010年4月16日を基準日として、第1回株主配当を行う予定であり、その金額は1株当たり1,000円を予定しています。

(参考)

	10/3期	11/3期(予)	増減
基礎利益 (第一生命単体)	3,301	3,000弱	-

(1) 3月中平均
(2) 持分考慮後

■2011年3月期の業績予想についてご説明します。

■経常収益については、第一フロンティア生命において、2010年3月期に変額年金の販売集中が発生した反動から、前年度に比べ大幅な減少を想定しています。

■また、当社単体についても、金融・資本市場において2010年3月期のような急回復を想定していないことから、特別勘定資産運用益等の減少を見込んでいます。ただし、資産運用費用や事業費等の減少も見込んでいることから、当社単体での経常利益は増益の予想をしています。

■当期純利益については、当社単体では経常利益と同様に増益の予想をしています。なお、第一フロンティア生命では、経常利益、当期純利益とも減少の予想をしているため、連結の当期純利益については減少の予想をしています。

■次に17ページをご覧ください。

第一フロンティア生命の業績予想

(億円)

	10/3期	11/3期(予)	増減
日経平均株価	11,089円	11,000円	89円
為替レート(ドル)	93.0円	91.0円	2.0円
為替レート(ユーロ)	124.9円	122.0円	2.9円
10年国債金利	1.39%	1.39%	±0.00%
当期純利益(は損失)	83	160	76
(A)危険準備金繰入額	404	200	204
(B)最低保証リスクに係る責任準備金戻入(は戻入)	369	160	529
(C)最低保証リスクに対するヘッジ損失	158	40	198
当期純利益 + (A) + (B) + (C)	110	160	49

17

■第一フロンティア生命の業績予想につきましては、当期純利益は2010年3月期の83億円の赤字から160億円の赤字へ拡大しています。

■これは主に、2010年3月期においては、金融市場の回復に伴い、最低保証リスクに係る責任準備金戻入が369億円発生しましたが、2011年3月期においては見込んでいないことによるものです。

■先ほどご説明した、金融市場等の影響を除いた基礎的収益力とも言える数値については、2011年3月期において、さらに改善すると予想しています。

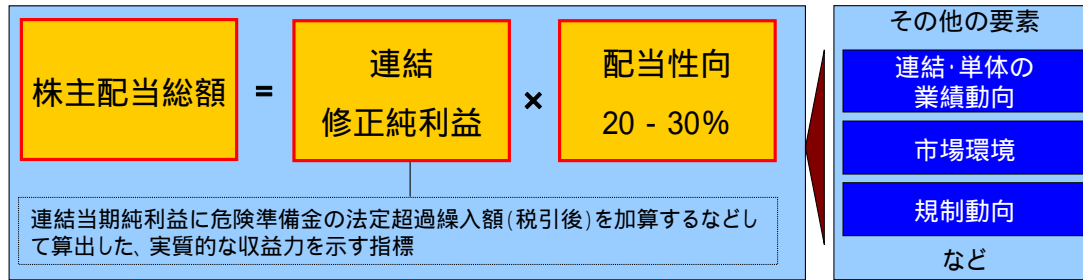
■次に18ページをご覧ください。

第一生命

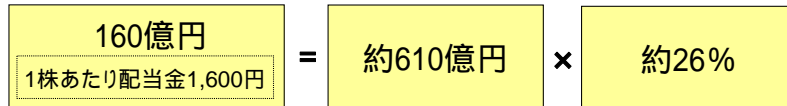
株主還元について

- 健全性強化、契約者配当とのバランスに配慮しつつ、中長期的に安定的な株主還元の実現を目指す
- 連結修正純利益に対する配当性向を20 - 30%とすることを目指しつつ、連結・単体の業績動向、市場環境、規制動向等を総合的に勘案し毎期待当を決定

【基本的な考え方】



【2011年3月期の期末予想配当】



■株主還元につきましては、健全性強化、契約者配当とのバランスに留意しつつ、中長期的に安定的な株主還元の実現を目指しています。

■具体的には、連結修正純利益、これは連結当期純利益に税引後の危険準備金の法定超過繰入額を加算するなどして算出した実質的な収益力ですが、その20% - 30%の割合とすることを目指しつつ、連結・単体の業績動向、市場環境、規制動向等を総合的に勘案し毎期待当を決定することとしています。

■2011年3月期については、修正純利益予想610億円に対して約26%となる160億円、1株あたりでは1,600円の期末配当金予想としています。

■以上で、説明を終了させていただきます。

いちばん、人を考える会社になる。

第一生命

参考データ

第一生命

第一生命(単体)財務諸表

損益計算書(要約)⁽¹⁾

	09/3期	10/3期	増減
(億円)			
経常収益	51,828	43,315	8,512
保険料等収入	29,043	28,372	670
資産運用収益	11,783	11,534	248
うち利息・配当金等収入	7,413	7,080	332
うち有価証券売却益	3,826	2,425	1,401
うち特別勘定資産運用益	-	1,931	+1,931
その他経常収益	11,001	3,408	7,592
うち責任準備金戻入額	7,377	-	7,377
経常費用	50,736	41,379	9,357
うち保険金等支払金	27,535	26,105	1,430
うち責任準備金等繰入額	271	3,282	+3,011
うち資産運用費用	14,148	3,300	10,847
うち有価証券売却損	5,048	2,078	2,969
うち有価証券評価損	4,419	105	4,314
うち特別勘定資産運用損	3,004	-	3,004
うち事業費	4,440	4,387	52
経常利益	1,091	1,936	+844
特別損益	456	1,161	1,618
税引前当期純利益	1,547	774	773
法人税等合計	891	166	725
当期純利益	655	608	47

貸借対照表(要約)

	09/3末	10/3末	増減
(億円)			
資産の部合計	300,222	308,224	+8,002
うち現預金・コール	3,935	3,976	+40
うち買入金銭債権	2,813	2,898	+85
うち有価証券	226,678	239,879	+13,200
うち貸付金	42,484	38,343	4,140
うち有形固定資産	12,394	12,436	+41
うち繰延税金資産	6,409	3,376	3,033
負債の部合計	294,024	298,221	+4,197
うち保険契約準備金	275,275	278,037	+2,761
うち責任準備金	270,069	273,248	+3,178
うち危険準備金	5,090	5,270	+180
うち退職給付引当金	4,036	4,096	+59
うち価格変動準備金	1,014	1,154	+140
純資産の部合計	6,198	10,003	+3,804
うち基金等合計	7,299	6,046	1,252
うち株主資本合計			6,046
うち評価・換算差額等合計	1,101	3,956	+5,057
うちその他有価証券評価差額金	474	4,611	+5,086
うち土地再評価差額金	622	635	12

(1) 09/3期については、社員配当準備金繰入額について株式会社と同様に費用処理を行ったと仮定した場合の数値。



第一フロンティア生命(単体)財務諸表

損益計算書(要約)

(億円)

	09/3期	10/3期	増減
経常収益	3,871	9,613	+5,741
うち保険料等収入	3,862	8,632	+4,770
うち資産運用収益	7	979	+972
経常費用	4,332	9,696	+5,363
うち保険金等支払金	94	455	+361
うち責任準備金等繰入額	3,474	8,640	+5,166
うち資産運用費用	503	162	341
うち事業費	227	386	+158
経常損益	460	83	+377
特別損益	0	0	0
税引前当期純損益	461	83	+377
法人税等合計	0	0	+0
当期純損益	461	83	+377

貸借対照表(要約)

(億円)

	09/3末	10/3末	増減
資産の部合計	5,564	14,231	+8,667
うち現預金・コール	493	300	193
うち有価証券	4,741	13,135	+8,393
負債の部合計	4,514	13,057	+8,542
うち保険契約準備金	4,362	13,002	+8,640
うち責任準備金	4,355	12,996	+8,640
うち危険準備金	43	447	+404
純資産の部合計	1,049	1,174	+124
うち株主資本合計	1,045	1,162	+116
資本金	1,075	1,175	+100
資本剰余金	575	675	+100
利益剰余金	604	687	83

金融市場への感応度(2010年3月末)

	感応度 ⁽¹⁾⁽²⁾	含み損益ゼロ水準 ⁽²⁾⁽³⁾
国内株式	日経平均株価 1,000円の変動で 2,700億円(3,200億円)の増減	日経平均株価 ¥8,700 (¥8,000)
国内債券	10年国債利回り 10bpの変動で 1,500億円(1,400億円)の増減	10年国債利回り 1.6% (1.6%)
外国証券	ドル/円 1円の変動で 180億円(180億円)の増減	ドル/円 \$1 = ¥95 (¥101)

(1) 各指標に対応する資産の時価総額の感応度。

(2) ()の数値は2009年3月末の水準

(3) 各指標に対応する資産の含み損益がゼロとなる水準。外国証券はドル円換算にて算出した、為替要因のみの含み損益がゼロとなる水準。

いちばん、人を考える会社になる。

第一生命

本資料の問い合わせ先

第一生命保険株式会社
経営企画部 IR室
電話:050 - 3780 - 6930

免責事項

本プレゼンテーション資料の作成にあたり、第一生命保険株式会社(以下「第一生命」または「当社」という。)は当社が入手可能なあらゆる情報の正確性や完全性に依拠し、それを前提としていますが、その正確性または完全性について、当社は何ら表明または保証するものではありません。本プレゼンテーション資料に記載された情報は、事前に通知することなく変更されることがあります。本プレゼンテーション資料およびその記載内容について、当社の書面による事前の同意なしに、第三者が公開または利用することはできません。

将来の業績に関して本プレゼンテーション資料に記載された記述は、将来予想に関する記述です。将来予想に関する記述には、これに限りませんが「信じる」、「予期する」、「計画」、「戦略」、「期待する」、「予想する」、「予測する」または「可能性」や将来の事業活動、業績、出来事や状況を説明するその他類似した表現を含みます。将来予想に関する記述は、現在入手可能な情報をもとにした当社の経営陣の判断に基づいています。そのため、これらの将来に関する記述は、様々なリスクや不確定要素に左右され、実際の業績は将来に関する記述に明示または黙示された予想とは大幅に異なる場合があります。したがって、将来予想に関する記述に依拠することのないようご注意ください。新たな情報、将来の出来事やその他の発見に照らして、将来予想に関する記述を変更または訂正する一切の義務を当社は負いません。